



## プールが終わりました！

8月28日のプールが最後となりました。6月27日がプール開きで、合計8回プールの学習がありました。雨や雷で中止になることが全くななく、いつも晴天に恵まれたので子供達と先生方の行いがきっと良かったのだろうと思います。



1・2年生は「水遊び」の学習です。水に慣れ親しむのが大きなねらいです。鬼ごっこをしたり、宝探しをしたりしながら、もぐったり浮いたりする感覚を覚えていきます。もぐることを怖がっていた子がいましたが、楽しく学習を進めるうちに、少しずつもぐることができるようになっていきました。

4・5・6年生は「水泳」の学習です。コースに分かれて練習に励みました。長い距離を泳ぐには、息継ぎが必要になります。先生が丁寧に教え、時には上手な友達の泳ぎを見ながら繰り返し練習しました。そして、最後の日にどれだけ泳げるようになったか調べてみました。すると、4年生以上全員が25m以上泳ぐことができました。初めて25m泳ぐことができた子もあり、伸びを実感してプールを終わることができました。

## 6年社会科の授業を参観しました！

各学校には校内研修という時間があり、よりよい授業づくりのために授業参観を行い、その後に意見交換を行います。その一環として、9月3日に6年の社会科の授業がありました。八代市教育委員会の方や坂本中学校の先生も見に来られました。



室町時代の文化についての学習です。まず、水墨画や生け花、茶の湯について調べます。役割分担をして、タブレットで調べたことをまとめていきます。教科書で調べたり、インターネットで調べたり、時には先生に聞いたりしながら学習を進めていきました。ただ知識として覚えるのではなく、「なぜ、水墨画は墨の濃淡だけで表現しているのか」「お茶とお花で表す美しさは何なのか」などを考えていきました。子供達からは「質素」「簡素」「静か」「落ち着く」などの意見がありました。室町時代の文化は金閣などの北山文化と銀閣などの東山文化があり、この学習は東山文化にあたります。東山文化は、武家中心の文化で、禅の精神を深く反映した簡素で深みのある美意識（わび・さび）が特徴です。この特徴を的確に言い当てた言葉が子供達から出てきて感心しました。

もう一つ感心したのが、授業の雰囲気です。一人一人が学ぼうとする意識とみんなで授業を作り上げていこうとする意識が高いと感じました。私が担任をしていたときに「『分からぬ』ことは恥ずかしいことではなく、『分かろうと（努力）しないこと』や『分からぬ友達に手を差し伸べようとしないこと』が恥ずかしいこと。」と伝えていたことを思い出しました。社会科の力も付けながら、心も育てる授業であったと思います。「学校の雰囲気は高学年がつくる」とも伝えています。授業のよい雰囲気を学校全体に広げていってほしいと思っています。